



会派みどり
渡邊 龍之

JR根室本線について

質問 存続可能路線としての戦略的な取り組み状況、利用促進に向けての対策を伺う。

答弁 根室本線対策協議会では、①営業損益の調査分析によるコスト圧縮に向けた経費節減策、②日常的な観光・企画列車の運行による利用促進策、③マイレール、マイステーションに向けた住民の意識促進策の3点を検討内容として、10月に市町長で構成される本協議会役員会に中間報告を行い、年度末までに検討結果をまとめる予定です。現時点では、利用促進に向けての検討段階には至っていませんが、地域住民の理解と協力を得ながら、利用を伸ばす方策と外から人を呼び込む方策の2つを念頭に考えています。

地域づくりについて

質問 東滝川における地域課題の解決に向けては、行政の支援を仰

ぐなか、市職員の協力と地域が一体となり核を創り出すことができた。地域づくりに向けての考えを伺う。

答弁 地域づくりは、行政だけで進められるものではありません。市民・団体・企業・行政などが思いを共有し、一体となって取り組んでいく姿勢が重要であると認識しています。東滝川においては、Aコープ東たきかわ店の撤退に危機感を募らせた地元町内会が、地域から店舗前に住民が集まる機会を増やす取り組みの提案や働きかけを、関係各所に行い、他に例をみない店舗づくりが図られ、当初出店が難しいと思われていた、セイコーマート東たきかわ店がオープンしました。市内では地域が抱える課題を住民みずからが認識し、真剣に向き合い、解決の糸口を見出していく取り組みを進めている地域や団体があります。

本市としましては、今後においても自分たちの住む地域をこうしていきたいという住民の思いには積極的にサポートを行い、魅力ある地域づくりに向けて連携を図っていきます。



会派みどり
山口 清悦

中学校でのフッ化物洗口実施について

質問 本市の幼稚園・保育所・小学校でのフッ化物洗口実施は、滝川市子供の歯を守る会ならびに滝川歯科医師会の指導協力があり、その歴史は古く、北海道内でも常にこの事業の先頭を走ってきた。中空知管内の自治体でも北海道歯・口腔の健康づくり8020推進条例が制定されてから着実に増え、現在は中学校までその実施が拡大されている。赤平市・芦別市はすでに実施しており、砂川市も平成29年度から実施している。市教育委員会は、滝川市子供の歯を守る会から中学校での実施要請を受けているのに、なぜ実施しないのか伺う。

答弁 平成29年2月15日に開催されました歯科保健事業打ち合わせ会議において、歯科医師会から中学校への拡大に向けて教育委員会として積極的に取り組むべきという意見をいただいています。

フッ化物洗口は、24年度より市内の全小学校を対象に保護者の希望に基づき実施しています。中学校での実施については、小学校での実施率が80%台を達成し、24年度から実施している1年生が6年生になる29年度に虫歯の抑制効果を検証して、実施に向けて検討するとしています。

現在の実施率は、29年1月末で79・8%となり、おおむね80%があります。虫歯の児童の割合は、フッ化物洗口の実施者が13・1%、未実施者が15・7%です。フッ化物洗口を行うことで、虫歯の予防効果が高まると考えています。

中学校での実施拡大につきましては、学校現場や関係機関にフッ化物洗口の安全性と予防効果を理解していただき、手法や財政負担の問題をクリアしたうえで、実施に向けた取り組みの検討を進めていきたいと考えています。

